

一次の(1)~(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)~(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- (1) しおりが挟まったままでの本。
- (2) ついたてで部屋を隔てる。
- (3) 悠久の歴史を感じる。
- (4) 厳肅な雰囲気。
- (5) チームのハンラとなる存在。
- (6) 動物がつくったスアナ。
- (7) この荷物はアンガイ軽かった。
- (8) ヤハンに目を寛ます。

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著者への配慮から現時点での掲載を控えています。

著者への配慮から現時点での掲載を控えています。

(原研哉「白巨」による)

(注) 梅里雪山は中国雲南省にある連山のこと。

轆轤は陶器などを成形するときに用いる回転筒。

1 次のうち、と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 修繕
- イ 避暑
- ウ 送迎
- エ 密封

2 次のうち、本文中のに入れるのに最も適していることはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 古歌を重んずる
- イ 古歌を軽んずる
- ウ
- エ 独創を非とする

へらのえす。者かて控ま権慮点をり作配時載お著の現掲て

3 次のうち、本歌取りや轆轤を回して茶碗を作ることにについて、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 本歌取りという方法があるように、和歌を詠むには、言葉を生み出す技術よりもむしろ、過去に詠まれた歌に対する知識の方が必要となる。
- イ 本歌取りにおける創造性は、時代を経て人々の意識に残ってきたものに、個を重ね合わせていくことで見えてくる差異の中から見出される。
- ウ 轆轤を回して茶碗を作る行為における創造性は、自ずと生まれてきた相似反復からではなく、その中に生じた差異から見立てられている。
- エ 轆轤を回して茶碗を作る行為には、先人の営みを踏襲しながらも、普遍的な美を超えた個の創造性を見立てようという意識が働いている。

4 とあるが、日本文化の中に育まれてきた創造性について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。
a に入れる内容を、本文中のことばを使って十字以上、十五字以内で書きなさい。また、に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二十五字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。

創造や創発という行為が携えているのは、未踏の地を踏み手応えのような創造性は、先達の足跡に自分の足跡を重ねることで、創作意欲を発露しながらも、である。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著者への配慮から現時点での掲載を控えています。著者への配慮から現時点での掲載を控えています。

1 を現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。
2 本文中にはとあるが、このことばは本文中で最も適しているものを本文中のから一つ選び、記号を○で囲みなさい。

(注) 狂言は、能や狂言を演じる役者のこと。
藤十郎は元禄期を代表する役者。

3 とあるが、次のうち、このことばは本文中の意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 言い方を工夫しなければきちんと伝わらない
- イ 前もって言うことを考えるということはない
- ウ 口に出す前に慎重に考えなければならぬ
- エ あれこれ言おうとするのはみっともない

4 狂言のけいこや舞台の初日に、藤十郎が心がけていることについて、本文中で述べられている内容を次のようにまとめた。
a に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から二字で抜き出さない。また、に入れる内容を本文中から読み取って、現代のことばで二十字以上、三十字以内で書きなさい。

狂言は、日常をaと考えるため、けいこの時にせりふをよく覚え、初日にはもとから忘れ、舞台においてbようにしている。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から現時点での掲載を控えております。

著作権者への配慮から現時点での掲載を控えております。

(川村秀憲・山下倫央・横山想二郎「人工知能が俳句を詠む」による)

(注) 本意本情 〓 ここでは、ある題材が本来備えている性質、意味やあり方のこと。

1 本文中のA、Dの——を付けた語のうち、一つだけ他と活用形の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の [ア] から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

[ア] ~ [エ] から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

3 ① とあるが、本文中で筆者は、俳句を通したコミュニケーションにおいて、エンコーダーとデコーダーの役割は、具体的にどのようなことであると述べているか。その内容についてまとめた次の文の [] に入る内容を、本文中のことはを使って五十五字以上、七十字以内で書きなさい。

詠み手が、 [] こと。

4 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 詠み手と鑑賞者との間で季語の本意本情を共有することができるのは、歳時記に記載される季語やその意味が、新たに生まれたさまざまな作品や解釈を受けても変わることがないからである。

イ わずか十七音で豊かな世界が表現されるには、歳時記を参照し、詠み手と鑑賞者の双方が多様な言葉の意味を知りながらも、そのうちのどの意味で詠み手が言葉を用いたのかを鑑賞者が正確に理解する必要がある。

ウ 歳時記に収録された季語を用いることを条件とすることで、詠み手と鑑賞者の双方が季語の本意本情を理解しているという共有知識が成り立ち、わずか十七音の言葉で、正確で効率の良いコミュニケーションが成立する。

エ 詠み手が歳時記を参照し、季語の本意本情を理解したうえで詠んだ俳句であれば、鑑賞者がその句に詠まれた季語の本意本情を知らなかったとしても、十七音という短い言葉だけで、豊かな世界を伝えることができる。

五 合意の形成に向けての話し合いを行う際に、あなたが心がけたいと考えることはどのようなことですか。次の条件1・2にしたがって、あなたの考えを別の原稿用紙に書きなさい。

条件1 あなたが心がけたいと考えることはどのようなことを示したうえで、なぜそのように考えたのかを説明すること。

条件2 二百六十字以内で書くこと。

受験 番号	番
----------	---

得点	
----	--

〈問題五を除く〉

二						
4		3	2	1		
b	a			ア	ア	ア
				イ	イ	イ
				ウ	ウ	ウ
				エ	エ	エ

21	4	6	4	4	3	採点者記入欄

一							
(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
				敵	悠	隔	挟
ヤ	アン	ス	ハシラ	肅	久	てる	まった
ハン	ガイ	アナ					

12	2	2	2	2	1	1	1	1	採点者記入欄

四											
4	3								2	1	
ア									詠み手が、	ア	A
イ	55									イ	B
ウ	70								こと。	ウ	C
エ										エ	D

19	4	8	4	3	採点者記入欄

三									
4				3	2	1			
b					a	ア	ア		
					舞台において	イ	イ		
30						ウ	ウ		
20						エ	エ		

20	6	4	4	4	2	採点者記入欄

